

## 120年の歳月を経た琵琶湖疎水 小龍の絵と比べてください

昨年は坂本龍馬のブームから、ジョン万次郎の漂流記で龍馬に大きな影響を与えた『漂異紀畧』<sup>ひょういきりやく</sup>が人気をかくし、本学図書館も原本に近い写本をNHKの求めに応じて全国の四会場で開かれた大河ドラマ特別展「龍馬伝」へ出展しました。それに伴い、この書物を著した土佐の絵師、河田小龍<sup>かわだしょうりゅう</sup>の名前も喚起されましたが、彼は明治時代になってから、京都の社会的基盤の整備事業である琵琶湖疎水の工事記録を絵に描いていました。これは、第三代目の京都府知事であった北垣国道の求めに応じて記録作りを行ったもので、絵は『琵琶湖疎水圖誌』に収められています。疎水の完成から数えて120年を経た疎水の風景を、アマチュア写真家の安藤紳次氏が撮影していただきました。



『琵琶湖疎水圖誌』の絵と同じポイントを探したが見つからず、似た位置からシャッターを押す

今も変わらぬ疎水の流れ



トンネル上部に掲げられた「気象萬千」の額も竣工の喜びを伝えている

関連図書（河田小龍の絵と比べてください。）

『琵琶湖疎水圖誌』 琵琶湖疎水圖誌刊行会編 [河田小龍著]。東洋文化社, 1978.5. (721.9-Kaw)